

社会人のための情報システム誌
— 経営近代化のシステム研究 —

Computer Report

4

2017 No.751

3 はじめの言葉

4 人間に求められる経験と

人間の過不足をもたらすシステム

田原文夫

少子高齢化が指摘される中、IT 化の推進で 2030 年には 240 万人が不要になるという予測がある。AI が急激に進歩し、将棋、囲碁で人間を凌ぐものが出てきている。かといって、人間の不要論に短絡して考えるべきでない。スパコン、パソコン、モバイルなどの情報機器が、そして人間が共存する必要性を改めて考える時を迎えた。

10 情報社会を考える その79

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

錯覚現象としての最適化

イギリスの EU からの離脱に向けての本格的な作業が始まっている。世界的な金融市場のセンター的役割を果たしてきたバンクシティ（ロンドン）も、その役割に大きな節目を迎えるかもしれない。かつて「七つの海に陽の沈むときなし」と言われた大英帝国の勢いは、まさにこのバンクシティの存在からだった。EU からの離脱を契機に、ロンドンに在る各国企業がベルリン（ドイツ）、パリ（フランス）といった各都市に本拠を移し出していると伝えられる。イギリス国民による国民投票の結果が、いろいろな形で表面化してきている。

12 オープンガバメント OG 40

情報社会をすすめる

その74

水田 浩

1990 年代に紙によるワークフローをデジタルにして、メインフレームと端末を使って事務系、技術系で個別に行われるようになり、1995 年代にはインターネットが世界中で使えるようになってきた。そして、個別に開発されたシステムをより早く、より安く、より良くつかうために製品やシステムのライフサイクル全体の統合化を模索するようになっていた。そして、産業別、国別のシステムとデータを世界共通にしてより生産性の高いビジネスをするために、世界共通の情報基盤を作らなければならないという認識が世界中で起こっていた。そこで、CALS の一つの製品、システム、サービスを全ライフサイクルで、「情報は一度つくって、幾度も使う」という運動は世界規模で受け入れられた。一つの CALS という概念（言葉）で 1995 年から 2005 年に掛けて世界中が一つになって運動を起こすようになった。

19 連載 アーキテクチャ論 (72)

IT4IT と ITIL の適用事例

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授

本連載第 71 回では IT4IT と ITIL などの業界標準を比較した。本稿では、IT4IT[1.2]の適用事例として、Shell[3]と Rabobank[4]の適用例を紹介する。

29 連載 日本再生と人材育成

人口減少／少子高齢化時代への挑戦 その 27

人材フル発揮のための就職/転職のステップとポイント Dr.ベスト

日本の人口減少/少子高齢化時代の原点にもどると、この先一人ひとりとは極めて貴重な人材（人財）であり、その意思と能力をいかにフル発揮できる仕事に就き、その活動を通して最大限の成果が得られるような働く仕組みを準備・提供していくかが喫緊の課題であるといえよう。人口減少／少子高齢化時代において最も重要なことは、数少ない人材のほとんど全員が自分の意思と能力にマッチした仕事に就き、その意思と能力がフルに発揮されるような状態が実現できることである。

35 IT 新時代とパラダイム・シフト

第 89 回 GPS 捜査への最高裁の

違法判決と警察の秘密主義 根本忠明

最高裁は、令状無し GPS 捜査を違法とする画期的な判断を示した。警察による数々の不透明なハイテク捜査に、一つの歯止めがかけられたからである。日本はカーナビ先進国であったにもかかわらず、警察の秘密主義に阻まれ、GPS 捜査そのものが表面化しなかった。今回は、警察の GPS 捜査と地裁・高裁の判決のこれまでの経緯を中心に、報告する。

37 続インテリジェンスへのいざない 87

2つの証人喚問から

感じ取れたものは何だったか 今井 武

面白半分でやっているわけではないだろうが、奇しくも国会および東京都議会で、証人喚問が実施された。何かしらの政治的な流れを変えたいというのが、選良たちの意図なのだろうが、果たして結果は「大山鳴動、鼠一匹も無し」。それとも、この続きがあるのか。

40 連載 四字熟語カトレーニング

すぎやまちヒロ

セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで
株式会社 日本経営科学研究所
ComputerReport編集部

cr-info@jmsi.co.jp

CR 選書のご案内

CR選書

改訂版
データ・ウェアハウス

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300) A5版 289頁

石井 義興 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

| | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| 第一章 目録が必要としているデータ | 第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスのサポート |
| 第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの相違点 | 第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール |
| 第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス | 第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール |
| 第四章 リレーショナル・モデルとネストド・リレーショナル・モデル | 第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション |
| 第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス | |
| 第六章 データ・ウェアハウス管理システム | 付録 |

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

実践データ・ウェアハウス OLAP

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

| | |
|------------------------------|------------------------|
| 第一章 これまでのEUCIでできなかったこと | 第七章 多次元データベースを作る |
| 第二章 OLAPの定義 | 第八章 多次元データベースの構造 |
| 第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール | 第九章 多次元データベースとアプリケーション |
| 第四章 分析処理の歴史 | 第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド |
| 第五章 OLAP(多次元データベース)の形 | 第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ |
| 第六章 データウェアハウスとOLAP | 付録 |

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

消費者行動論

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 181頁

田原文夫 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

| | |
|-------------------|------------------------|
| 第一章 消費者行動論 | 第四章 消費者意志決定 |
| 第二章 消費者行動と心理的決定要素 | 第五章 消費者行動トピックス |
| 第三章 消費者行動と社会的決定要素 | 第六章 人間であること(人間行動トピックス) |

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

aism 研究活動報告
インターネットセキュリティの落とし穴

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修
aism情報セキュリティ・マシントリプル研究会 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

| | |
|-------------------------------|-----------------------------|
| 第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー | 第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除記 |
| 第二章 aism情報セキュリティマシントリプル研究会の発足 | 第十二章 メールが通らない |
| 第三章 認知される電子署名方式の基本原則 | 第十三章 生体ネット運用のための情報オーナーの課題 |
| 第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム | 第十四章 最近のインターネット防衛戦線心得 |
| 第五章 情報システムにおけるリスク | 第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策 |
| 第六章 情報漏洩対策 | 第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育 |
| 第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク) | 第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」 |
| 第八章 aismの2016年度の事業計画 | 第十八章 セキュリティポリシー作成にあたってのノウハウ |
| 第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題 | |
| 第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス | |

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！
トップ主導の情報システム革新

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 271頁

高田 顯重 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

| | |
|-------------------------|-------------------|
| 第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題 | 第五章 情報システム監査 |
| 第二章 経営活動と情報システム | 第六章 情報システム部門の体制革新 |
| 第三章 経営情報システム革新の方向 | 第七章 情報システムの成果評価 |
| 第四章 トップ主導の情報システム開発 | 第八章 変化対応のシステム作り |

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

計量モデルの構造と解法
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 213頁

安田 聖 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

| | |
|-----------------------|------------------|
| 第一部 計量モデル | 第二部 大規模モデルの効率的解法 |
| 第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史 | 第五章 計量モデルの分解方法 |
| 第二章 線形計量モデルの解法 | 第六章 方型式のオーダーリング |
| 第三章 非線形計量モデルの解法 | 第七章 大規模モデルの解法 |
| 第四章 反復法の問題点 | 第八章 スパース |
| 付録・電子計算機の高速化と計量方法 | |

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

『いざ！というときの得広報』
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300) A5版 228頁

加藤 洋一 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

| | |
|----------------------|--------------------------|
| ■ 広報ビジネスの前提条件 | ■ 売定文も企業体質 |
| ■ ニュースリリースは東方向運賃 | ■ 守るも攻めるも広報が窓口 |
| ■ 活字媒体の特性をチェックする | ■ あなたならどう対応する「事例編」 |
| ■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック | <付> 記事とうまく付き合うための鉄則(まとめ) |

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

ザ・ワールドリンク
がんばれ、国際グローバルサーバー—
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300) A5版 268頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

| | |
|----------------------|--------------------------|
| 第一章 発端 | 第十一章 日本開発手法の違い |
| 第二章 あるプロジェクト | 第十二章 米商チーム崩壊の危機 |
| 第三章 新しいシステムへの働き | 第十三章 新たな仲間 |
| 第四章 WOOIに向けて | 第十四章 米商事務所移転と新たな組み |
| 第五章 FJO、IBM競争 | 第十五章 開発フル稼働とバリエーション |
| 第六章 日本プロジェクトチームの発足 | 第十六章 ユーザー教育 |
| 第七章 プロジェクト開始 | 第十七章 日本運用体制と本番稼働日誌 |
| 第八章 米商チーム立ち上りの流れ | 第十八章 既存システムとのデータ交換の問題 |
| 第九章 大きな壁、英語コミュニケーション | 第十九章 稼働その一 直前、稼働、直後の苦しみ |
| 第十章 米商チーム、異なる三人組 | 第二十章 稼働その二 安眠稼働と北米センター移設 |

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp